

## イタリアの親権(親責任)に関する法令概説

### 【イタリアの親権(親責任)に関する規定】

#### (1) イタリア共和国憲法

#### (2) イタリア民法典

##### 第9章(親責任と子の権利義務)

##### 第1節(子の権利と義務)

第II節(別居、婚姻の解消、婚姻の民事効果の終了、婚姻の取消、無効または婚姻外で出生した子に関する手続の効果としての親責任の行使)

##### 第9章の2(家族の暴力に関する保護命令)

#### (3) イタリア民事訴訟法典

第709条の3(紛争の解決および不履行または違反の措置)

#### (4) イタリア刑事訴訟法典

第282条の2(家族の家からの退去)

その他関連法としては、「離婚法」(1970年12月1日法律第898号)がある。

### 【イタリア共和国憲法】

イタリア共和国憲法には第29条から第30条まで家族に関する規定が置かれている。第30条には、親の権利義務が規定されている。この第30条が民法典の親権(親責任)についての指針を示している。

### 【イタリア共和国憲法】

**第30条** 子を扶養、訓育、および教育することは親の義務であり権利である。子が婚姻外で生まれたものであっても、同様とする。

親が無能力の場合は、法律は、その責務が果たす措置を講じる。

婚姻外で生まれた子に対する法的小および社会的保護は法律で定める。この保護は適法な家族構成員の権利と両立するものとする。

父の捜索に関する規律と制限は法律で定める。

### 【Costituzione della Repubblica Italiana】

Art. 30. È dovere e diritto dei genitori mantenere, istruire ed educare i figli, anche se nati fuori del matrimonio.

Nei casi di incapacità dei genitori, la legge provvede a che siano assolti i loro compiti.

La legge assicura ai figli nati fuori del matrimonio ogni tutela giuridica e sociale, compatibile con i diritti dei membri della famiglia legittima.

La legge detta norme e i limiti per la ricerca della paternità.

<p><b>[イタリア民法典]</b></p> <p>成年年齢については、民法典第 2 条により、18 歳である。</p> <p><b>[第 9 章 親責任と子の権利義務]</b></p> <p>イタリア民法典では、かつては親の子に対する権利義務は、民法典の「婚姻」の章(第 6 章)に、「婚姻から生じる権利義務」(147 条)として規定されていた。また別居後の親子関係は、同章の第 5 節「夫婦の別居と婚姻の解消について」の第 155 条に規定されていた。また離婚後の親子関係は、「離婚法」に規定されていた。このように親子間の権利義務に関する条文は、親の婚姻関係の相違に応じて、別々に規定されていた。</p> <p>しかし 2012 年、2013 年の改正により、子の法的地位は、第 9 章「親責任と子の権利義務」という独立した章に、ともに規定されることとなった。この結果、子の親に対する権利義務は、親の婚姻関係と切り離されることとなった。</p> <p><b>[子の権利]</b></p> <p>2012 年の改正により、第 315 条には新たに子の地位の平等が規定され、さらに第 315 条の 2 には、父母に対して、扶養、教育、訓育および精神的援助を受ける子の権利が規定された。</p> <p>また同条 2 項には、親族との関係を保持する子の権利も明記された。</p> <p>12 歳以上または判断能力がある子についてはそ</p>	<p><b>[イタリア民法典]</b></p> <p><b>第 2 条(成年年齢、行為能力)</b></p> <p>成年は年齢 18 歳と定める。成年により、異なる年齢の定められていないすべての行為を行う能力を得る。</p> <p><b>[Codice Civile]</b></p> <p><b>Art. 2. (Maggiore età.Capacità di agire).</b></p> <p>La maggiore età è fissata al compimento del diciottesimo anno. Con la maggiore età si acquista la capacità di compiere tutti gli atti per i quali non sia stabilita una età diversa.</p> <p><b>第 9 章 親責任と子の権利義務</b></p> <p><b>第 I 節 子の権利と義務</b></p> <p><b>Titolo IX Della responsabilità genitoriale e dei diritti e doveri del figlio)</b></p> <p><b>Capo I Dei diritti e doveri del figlio</b></p> <p><b>第 315 条 (親子関係の法的地位)</b></p> <p>すべての子は、同一の法的地位を有する。</p> <p><b>Art. 315. (Stato giuridico della filiazione)</b></p> <p>Tutti i figli hanno lo stesso stato giuridico.</p> <p><b>第 315 条の 2 (子の権利と義務)</b></p> <p>子は、その能力、生来の性向、志望により、父母により扶養、教育、訓育および精神的に援助を受ける権利を有する。</p> <p>子は、家族の中で成長し、親族との重要な関係を保持する権利を有する。</p> <p>12 歳に達し、またはそれ以下でも判断能力のある子は、子に関するすべての問題および手続において意見の聴取を受ける権利を有する。</p> <p>子は父母を尊敬せねばならず、自己の能力、自己の資力、収入について、子と同居する家族の扶養を分担しなければならない。</p>
---	---

れ以下の年齢でも、意見の聴取を受ける子の権利が保障されることが明記された(同条3項)。

#### **【親権(親責任)の概念の変遷】**

イタリア共和国憲法は、親の権利義務について、「子を扶養し、訓育し、教育することは、親の義務であり権利である」との規定を置いている(イタリア共和国憲法第30条1項)。この親の権利義務について、民法上は、かつては、「父権(*patria potestà*)」という語が用いられていたが、憲法の男女平等の原則に合致しないため、1975年に家族法が改正され、「親権(*potestà dei genitori*)」に改められた。さらに2013年の改正により、子の権利の保障のために、「親責任(*responsabilità genitoriale*)」に改められた。

#### **【親責任の帰属および行使】**

##### **① 親責任の共同帰属・共同行使の原則(316条1項)**

親責任が合意によって行われることおよび子の住居についても、合意で定められることが規定された。

##### **② 「特に重要な問題」で対立する場合**

→より適切な措置を示して裁判官に申立(第316条3項)。

##### **③ 父母間で対立が続く場合**

→ 裁判官が決定を提示  
(父母および子の意見を聴取する)

#### **【婚外子の親責任】**

イタリア民法は、婚外子については、かつては自然子という語を用いていたが、2012年の改正でその語は廃止され、「子」または「婚姻外で生まれた子」となった。

#### **Art. 315 bis. (Diritti e doveri del figlio)**

Il figlio ha diritto di essere mantenuto, educato, istruito e assistito moralmente dai genitori, nel rispetto delle sue capacità, delle sue inclinazioni naturali e delle sue aspirazioni.

Il figlio ha diritto di crescere in famiglia e di mantenere rapporti significativi con i parenti.

Il figlio minore che abbia compiuto gli anni dodici, e anche di età inferiore ove capace di discernimento, ha diritto di essere ascoltato in tutte le questioni e le procedure che lo riguardano.

Il figlio deve rispettare i genitori e deve contribuire, in relazione alle proprie capacità, alle proprie sostanze e al proprio reddito, al mantenimento della famiglia finchè convive con essa.

#### **第316条 (親責任)**

父母双方は、子の能力、生来の性向、志望を考慮して、合意によって行われる親責任を負う。父母は、合意によって、子の住居を定める。

特に重要な問題について父母が対立する場合には、各父母は、より適切と思われる措置を示して、形式を問わず、裁判官に訴えることができる。

裁判官は、父母から聴聞し、および12歳以上およびそれ以下の年齢でも判断能力がある場合には、子の意見の聴取を行い、子および家族の一体性の利益のために、より有用であると判断される決定を提示する。対立が続く場合には、裁判官は、個々の場合に、子の利益の配慮について適切と判断される父母の一方に決定権を付与する。

子を認知した親は、その子に対する親責任を行う。婚姻外で生まれた子の認知が父母双方により行われる場合には、親責任は父母双方に帰属する。

親責任を行わない父母は、子の訓育、教育および生活の状態について監守する。

(1) 婚外子の親責任の帰属

婚外子の親権の帰属は、生物学上父母関係があっても、父および母ともに認知が必要である(第250条)。

イタリア法においては、母も認知が必要である点が日本法と異なる。

・婚外子の親責任

→父母双方が子を認知→父母双方が親責任を負う(第316条5項)

・親責任を行使しない父母→子の訓育、教育および生活状態について監守する(第316条6項)

**Art. 316. (Responsabilità genitoriale)**

Entrambi i genitori hanno la responsabilità genitoriale che è esercitata di comune accordo tenendo conto delle capacità, delle inclinazioni naturali e delle aspirazioni del figlio. I genitori di comune accordo stabiliscono la residenza abituale del minore.

In caso di contrasto su questioni di particolare importanza ciascuno dei genitori può ricorrere senza formalità al giudice indicando i provvedimenti che ritiene più idonei.

Il giudice, sentiti i genitori e disposto l'ascolto del figlio minore che abbia compiuto gli anni dodici e anche di età inferiore ove capace di discernimento, suggerisce le determinazioni che ritiene più utili nell'interesse del figlio e dell'unità familiare. Se il contrasto permane il giudice attribuisce il potere di decisione a quello dei genitori che, nel singolo caso, ritiene il più idoneo a curare l'interesse del figlio.

Il genitore che ha riconosciuto il figlio esercita la responsabilità genitoriale su di lui. Se il riconoscimento del figlio, nato fuori del matrimonio, è fatto dai genitori, l'esercizio della responsabilità genitoriale spetta ad entrambi.

Il genitore che non esercita la responsabilità genitoriale vigila sull'istruzione, sull'educazione e sulle condizioni di vita del figlio.

**第316条の2 (扶養の分担)**

父母は、各々の資力に応じておよび職業労働能力または家事労働能力によって、子に対する親の義務を履行しなければならない。父母が十分な資力を有しない場合には、子に対する親の義務を履行できるように、他の尊属は、親等に従って、必要な資力をその父母に供することが考慮される。

不履行の場合には、裁判所長は、利害関係人の

**[扶養義務の分担と不履行]**

第 316 条の 2 は、父母の子に対する扶養義務を規定する。

父母は各々の資力に応じて、職業能力および家事労働能力により、扶養義務を履行する。

扶養義務の不履行の場合には、裁判所長は履行命令を発令することができる(同条 2 項)。

異議申立てについては、履行命令への異議に関する規定が適用される(同条 4 項)。

申立により、不履行者から聴取し、かつ情報を得て、義務者の収入における分担額を、他方の父母または、子の扶養、訓育および教育の費用を負担する者に直接に支払う旨の命令を発することができる。

命令は、利害関係人および第三債務者に告知された上で、執行権限を生じる。ただし当事者および第三債務者は、告知から 20 日以内の期間に異議を申し立てることができる。

異議は、適用可能な限りにおいて、略式履行命令への異議に関する規定により規律される。

当事者および第三債務者は、通常の裁判手続の方式により、いつでも措置の修正または取消を求めることができる。

**Art. 316 bis.(Concorso nel mantenimento)**

I genitori devono adempiere i loro obblighi nei confronti dei figli in proporzione alle rispettive sostanze e secondo la loro capacità di lavoro professionale o casalingo. Quando i genitori non hanno mezzi sufficienti, gli altri ascendenti, in ordine di prossimità, sono tenuti a fornire ai genitori stessi i mezzi necessari affinché possano adempiere i loro doveri nei confronti dei figli.

In caso di inadempimento il presidente del tribunale, su istanza di chiunque vi ha interesse, sentito l'inadempiente ed assunte informazioni, può ordinare con decreto che una quota dei redditi dell'obbligato, in proporzione agli stessi, sia versata direttamente all'altro genitore o a chi sopporta le spese per il mantenimento, l'istruzione e l'educazione della prole.

Il decreto, notificato agli interessati ed al terzo debitore, costituisce titolo esecutivo, ma le parti ed il terzo debitore possono proporre opposizione nel termine di venti giorni dalla notifica.

<p><b>【父母の一方の障害】</b></p> <p>遠隔または無能力により、父母の一方が親責任を行使できない場合には、他方の父母のみが行使する(317条1項)。</p> <p>また、父母の親責任が、別居、婚姻解消、民事効果の終了、婚姻の取消、無効により終了しないとされた。これにより子に対する親の責任が、親の婚姻関係の有無、終了と関わらないことが明記された。</p> <p><b>【尊属との関係】</b></p> <p>尊属の権利として、「未成年の孫と重要な関係を維持する権利」が第317条の2に規定された。こ</p>	<p>L'opposizione è regolata dalle norme relative all'opposizione al decreto di ingiunzione, in quanto applicabili.</p> <p>Le parti ed il terzo debitore possono sempre chiedere, con le forme del processo ordinario, la modificazione e la revoca del provvedimento.</p> <p><b>第317条 (父母の一方の障害)</b></p> <p>父母の一方に、親責任の行使を不可能にする遠隔地、無能力または他の障害がある場合には、他方により単独で行われる。</p> <p>父母双方の親責任は、別居、婚姻解消、民事効果の終了、婚姻の取消、無効によって終了しない; かかる場合には、本章の第2節により規律される。</p> <p><b>Art. 317. (Impedimento di uno dei genitori)</b></p> <p>Nel caso di lontananza, di incapacità o di altro impedimento che renda impossibile ad uno dei genitori l'esercizio della responsabilità genitoriale, questa è esercitata in modo esclusivo dall'altro.</p> <p>La responsabilità genitoriale di entrambi i genitori non cessa a seguito di separazione, scioglimento, cessazione degli effetti civili, annullamento, nullità del matrimonio; Il suo esercizio, in tali casi, è regolato dal capo II del presente titolo.</p> <p><b>第317条の2 尊属との関係</b></p> <p>尊属は、未成年の孫と重要な関係を維持する権利を有する。</p> <p>かかる権利の行使を妨げられた尊属は、専ら子の利益のために、より適切な措置が採られるように、子の常居所地の裁判官に訴えることができる、336条第2項が適用される。</p> <p><b>Art. 317 bis. (Rapporti con gli ascendenti)</b></p>
---	--

の規定は、2013年に新しく加えられた規定である。父母が対立状態にある場合に、子を援助・配慮する存在として、尊属の存在が重視されたことによる。

尊属の権利が妨げられた場合には、裁判所に訴えることができる(同条2項)。

#### **【親責任の失効】**

第330条は、親責任を行使させるのに適切でない親の親責任の失効について規定する。

要件は、親の義務の違反または懈怠、または権限の濫用により、子に重大な損害をもたらす場合である。

親責任の失効の言渡しの効果としては、家族の住居または虐待親・同居者から子の退去が命じられる。

Gli ascendenti hanno diritto di mantenere rapporti significativi con i nipoti minorenni.

L'ascendente al quale è impedito l'esercizio di tale diritto può ricorrere al giudice del luogo di residenza abituale del minore affinché siano adottati i provvedimenti più idonei nell'esclusivo interesse del minore. Si applica l'articolo 336, secondo comma.

#### **第330条 子に対する親責任の失効**

裁判官は、親が有する義務に違反または懈怠し、または権限を濫用し、子に重大な損害をもたらす場合は、親責任の失効を言い渡すことができる。

かかる場合には、重大な理由により、裁判官は、家族の住居から、または子を虐待または濫用する親または同居者から子の退去を命じることができる。

#### **Art. 330. (Decadenza dalla responsabilità genitoriale sui figli)**

Il giudice può pronunciare la decadenza dalla responsabilità genitoriale quando il genitore viola o trascura i doveri(320, 324) ad essa inerenti o abusa dei relativi poteri con grave pregiudizio del figlio.

In tale caso, per gravi motivi, il giudice può ordinare l'allontanamento del figlio dalla residenza familiare ovvero l'allontanamento del genitore o convivente che maltratta o abusa del minore.

#### **第332条 親責任の回復**

裁判官は、失格した父母について、失格が言い渡された理由が消滅し、子に対する損害のあらゆる危険が除かれたときは、親責任を回復することができる。

<p><b>【親責任の回復】</b></p> <p>親責任の失効が言い渡された父母の親責任への回復は、第 332 条に規定されている。</p> <p><b>【子に対する軽微な損害の場合】</b></p> <p>親責任の失効より軽微ではあるが、子に損害がみられる場合は、第 333 条に規定される。</p> <p>→裁判所による子の利益に適する処置または家族の家からの親または同居者の退去を命じることができる。</p>	<p>Art.332 (Reintegrazione nella responsabilità genitoriale)</p> <p>Il giudice può reintegrare nella responsabilità genitoriale il genitore che ne è decaduto, quando, cessate le ragioni per le quali la decadenza è stata pronunciata, è escluso ogni pericolo di pregiudizio per il figlio.</p> <p><b>第 333 条 (子に害をもたらす親の行為)</b></p> <p>双方または一方の親が、330 条の失効の判決を言い渡すには至らないが、しかし子に損害が見られる場合には、裁判官は、諸般の事情により、子の利益に適する処置を採ることができ、また家族の住居または親または同居者から子の退去を定めることもできる。</p> <p>かかる措置は、いかなる時点でも、取り消しうる。</p> <p><b>Art. 333. (Condotta del genitore pregiudizievole ai figli).</b></p> <p>Quando la condotta di uno o di entrambi i genitori non è tale da dare luogo alla pronuncia di decadenza prevista dall' articolo 330, ma appare comunque pregiudizievole al figlio, il giudice, secondo le circostanze, può adottare i provvedimenti convenienti e può anche disporre l'allontanamento di lui dalla residenza familiare ovvero l' allontanamento del genitore o convivente che maltratta o abusa del minore.</p> <p>Tali provvedimenti sono revocabili in qualsiasi momento.</p> <p><b>第 334 条 (財産管理からの排除)</b></p> <p>子の財産が不手際に管理されているときは、裁判所は、父母がその管理において遵守すべき諸条件を定めることができ、または父母の双方もしくはその一方を当該管理から排除し且つその者から法定用益権の全部または一部を剥奪することがで</p>
---	---



**[財産管理からの排除(334条)]**

- ・子の財産が不手際に管理されているとき  
→管理権の排除等が裁判所により命じられる

きる。

両親双方の排除が決定された場合には、管理は財産管理人に付託される。

**Art.334(Rimozione dall'amministrazione)**

Quando il patrimonio del minore è male amministrato, il tribunale può stabilire le condizioni a cui i genitori devono attenersi nell'amministrazione o può rimuovere entrambi o uno solo di essi dall' amministrazione stessa, e privarli, in tutto o in parte, dell'usufrutto legale.

L'amministrazione è affidata ad un curatore, se è disposta la rimozione di entrambi i genitori.

**第 335 条 (管理の行使における再許容)**

管理から罷免されかつ法定用益権をはく奪された父母は、それらの措置をなさしめた理由が止んだときは、裁判所により前者の行使および後者の享有を再び認められうる。

Art. 335. (Riammissione nell'esercizio dell'amministrazione.)

Il genitore rimosso dall'amministrazione ed eventualmente privato dell'usufrutto legale può essere riammesso dal tribunale nell'esercizio dell'una e nel godimento dell'altro, quando sono cessati i motivi che hanno provocato il provvedimento.

**第 336 条 手続き**

前記の条項で示された措置は、他方配偶者、親族、検察官、または以前の決定の取消が問題となる場合は、利害関係のある親の申立てにより、行うことができる。

裁判所は、情報を収集しかつ検察官の意見を聴き、評議室において措置する；さらに子が 12 歳に

**【親責任失効等の手続き】**

・申立人 → 他方配偶者、親族、検察官

達し、またはそれ以下でも判断能力がある場合には、子の意見を聴く。その措置が父母に対して求められた場合には、この父母の意見が聴かれなければならない。

緊急の必要ある場合には、裁判所は、その職権をもってでも、子の利益のため暫定的な措置を講じることができる。

前項の措置については、父母および子は、弁護人により援助される。

**Art. 336 (Procedimento)**

I procedimenti indicati negli articoli precedenti(330, 332, 333, 334, 335) sono adottati su ricorso(125, 737 c.p.c.) dell'altro genitore, dei parenti o del pubblico ministero e, quando si tratta di revocare deliberazioni anteriori, anche del genitore interessato.

Il tribunale provvede in camera di consiglio, assunte informazioni e sentito il pubblico ministero, dispone, inoltre, l'alcolto del figlio minore che abbia compiuto gli anni dodici e anche di età inferiore ove capace di discernimento. Nei casi in cui il provvedimento è richiesto contro il genitore, questi deve essere sentito.

In caso di urgente necessità il tribunale può adottare, anche d'ufficio, provvedimenti temporanei nell'interesse del figlio(330, 333).

Per i provvedimenti di cui ai commi precedenti, i genitori e il minore sono assistiti da un difensore.

**第 336 条の 2 (子の意見の聴取)**

子は、12 歳以上および判断能力がある場合はそれ以下の年齢でも、裁判所長または、意見の聴取を受けなければならない子に関係する手続において委任を受けた裁判官により意見を聴取される。意見の聴取が子の利益と対立し、または明らかに不要な場合には、裁判官は、理由となる措置を伴う

証書を供し、履行の手続きは行わない。

意見の聴取は、専門家その他の援助者の利用も得て、裁判官により行われる。訴訟の当事者の場合であっても、父母、当事者の代理人弁護士、選任されている場合は特別後見人、および検察官は、裁判官によって許可された場合には、子の意見の聴取への参加が認められる。それらの者は、実施前に、議題と問題の深化を、裁判官に提案できる。

意見を聴取する手続の行う前に、裁判官は、意見聴取の手続の本質と効果について、子に情報を提供する。実施については、子の態度が記述され、またはビデオで記録された裁判調書が作成される。

**Art. 336 bis. (Ascolto del minore).**

Il minore che abbia compiuto gli anni dodici e anche di età inferiore ove capace di discernimento è ascoltato dal presidente del tribunale o dal giudice delegato nell'ambito dei procedimenti nei quali devono essere adottati provvedimenti che lo riguardano. Se l'ascolto è in contrasto con l'interesse del minore, o manifestamente superfluo, il giudice non procede all'adempimento dandone atto con provvedimento motivato.

L'ascolto è condotto dal giudice, anche avvalendosi di esperti o di altri ausiliari. I genitori, anche quando parti processuali del procedimento, i difensori delle parti, il curatore speciale del minore, se già nominato, ed il pubblico ministero, sono ammessi a partecipare all'ascolto se autorizzati dal giudice, al quale possono proporre argomenti e temi di approfondimento prima dell'inizio dell'adempimento.

Prima di procedere all'ascolto il giudice informa il minore della natura del procedimento e degli effetti dell'ascolto. Dell'adempimento è

<p><b>【親の別居・離婚後の親責任】</b></p> <p><b>(1)以前の制度</b></p> <p>イタリア法制度の下では、別居については民法に規定があり(第 149 条以下)、離婚については離婚法に規定がある(「離婚法」1970 年 12 月 1 日の法律第 898 号)。そのため親子関係も、かつては別居の場合の子の監護と離婚後の子の監護も、民法と離婚法とにそれぞれ別々に規定されていた。</p> <p>しかし 2006 年の「親の別居および子の共同分担監護(Affidamento condiviso)に関する規定」(2006 年 2 月 8 日法第 54 号)により、子の監護についての別居と離婚の場合の区別が取り払われた。そして別居・離婚後の親子関係についても、「共同分担監護」の理念の下に共同親権実現のために大幅に改正された。</p> <p>2006 年以前も、1987 年の離婚法改正により、「共同監護(Affidamento congiunto)」と「交互監護</p>	<p>redatto processo verbale nel quale è descritto il contegno del minore, ovvero è effettuata registrazione audio video.</p> <p><b>第 337 条 後見裁判官の監督</b></p> <p>後見裁判官は、裁判所が親責任の行使および財物の管理について定めた条件の遵守に関して監督することを要する。</p> <p><b>Art. 337. (Vigilanza del giudice tutelare).</b></p> <p>Il giudice tutelare deve vigilare sull'osservanza delle condizioni che il tribunale abbia stabilito per l'esercizio della responsabilità genitoriale e per l'amministrazione dei beni.</p> <p><b>第 II 節 別居、婚姻の解消、婚姻の民事効果の終了、婚姻の取消、無効または婚姻外で出生した子に関する手続の効果としての親責任の行使</b></p> <p><b>Capo II Esercizio della responsabilità genitoriale a seguito di separazione, scioglimento, cessazione degli effetti civili, annullamento, nullità del matrimonio ovvero all'esito di procedimenti relativi ai figli nati fuori del matrimonio</b></p> <p><b>第 337 条の 2 (適用の範囲)</b></p> <p>1. 別居、婚姻の解消、婚姻の民事効果の終了、婚姻の取消、無効および婚姻外で出生した子に関する手続の場合には、本節の規定が適用される。</p> <p><b>Art. 337 bis. (Ambito di applicazione).</b></p> <p>In caso di separazione, scioglimento, cessazione degli effetti civili, annullamento, nullità del matrimonio e nei procedimenti relativi ai figli nati fuori del matrimonio si applicano le disposizioni del presente capo.</p>
---	--

(Affidamento alternato)」の制度が認められていたが、原則は単独親権であった。また「共同監護」は裁判官の広範囲な裁量に委ねられたこと、「交互監護」は、子の情緒的不安定をもたらすという欠点から、実現が困難であった。そこでより実現しやすい制度として、「共同分担監護」の制度が2006年に導入されたのである。

そして2013年には、別居・離婚後の親子関係の規定は、第9章第2節の第337条の2以下に規定が移された。

## (2) 「共同分担監護」の理念と子の権利

### ① 「共同分担監護」の理念

別居・離婚後も、両親による監護、教育、訓育および精神的援助を受ける権利が子に保障され(第337条の3)、この権利は「両親とともに成長する権利(Il diritto alla bigenitorialità)」と称される。この「両親とともに成長する権利」に対応して、親には子の人格形成過程への共同参加の義務が課されることになる。「共同分担監護」は、この共同参加の義務の制度的実現であり、「共同分担監護」の理念は、親の子に対する共同責任とされる。

### ② 保障される子の権利(第337条の3)

- ・各父母と関係を継続的に維持する権利
- ・父母双方から監護、教育、訓育を受ける権利
- ・父母などの尊属や親族との関係を維持する子の権利

### (3) 「共同分担監護」における親責任の帰属

- ・原則→「共同分担監護」(第337条の3第1項)
- ・例外→単独監護(337条の4第1項)  
(子の利益に反すると解される場合)

### (4) 手続

別居・離婚を言い渡す裁判官が判断

- ・優先的に共同分担監護の可能性を検討(第337条の3第3項)
- ・監護の帰属、子の扶養、監護、訓育および教

## 第337条の3 子に関する措置

未成年の子は、父母のそれぞれと等しい関係を継続的に維持する権利および父母による監護、教育、訓育および精神的援助を受ける権利を有し、また父母それぞれの尊属および親族との重要な関係を保持する権利を有する。

337条の2における手続において、第1項に示された目的を実現するために、裁判官は、もっぱら子の精神的物質的利益を考慮して、子に関する措置を行う。父母双方に未成年の子の監護が継続される可能性を優先的に検討し、若しくは父母のいずれに子が監護されるかを定め、父母それぞれが、子の扶養、監護、訓育および教育について分担しなければならない範囲および態様を定め、父母それぞれの下において子が過ごす期間および方法を定める。子の利益に反しない場合には、父母間の合意について書面を作成する。父母の一方に子を監護させることが一時的な不可能な場合には、家族監護を含む、子に関するその他の措置を行う。子の監護に関する措置を実行するについては、事実審の裁判官、および家族監護の場合には、職権によっても行うことができる。かかる目的で、監護措置の写しが、検察官により、後見裁判官に送付される。

親責任は、父母双方によって行使される。子の訓育、教育、健康および子の日常の住居の選択に関する子のより重要な利益の決定は、子の能力、生来の性向、志望を考慮して、合意によりなされる。合意できない場合は、決定は、裁判官に移される。通常の管理の問題に関する決定にかぎり、裁判官は、親は別々に親責任を行使すると定めることができる。父母が前記の条件に従わない場合には、裁判官は、監護の態様を変更する目的でも前記の行為を評価する。

当事者による異なる合意がある場合を除いて、父母のそれぞれは、各人の所得に応じて、子の扶養を行う。必要な場合には、裁判官は、比例原則を実現するために、定期的扶養給付の支払いを定

<p>育についての分担の範囲、態様、父母それぞれの下で過ごす期間、方法を定め、合意について書面を作成する(第 337 条の 3 第 3 項)。</p> <p><b>(5) 「共同分担監護」における親責任の行使</b></p> <p>①親責任は共同行使を原則とする(第 337 条の 3 第 3 項)。</p> <p>②子の訓育、教育、健康に関する「子のより重要な利益の決定」→子の能力、生来の性向、志望を考慮して、父母双方の合意により行われる(第 337 条の 3 第 3 項)。</p> <p>③合意できない場合→裁判官に申立が可能(同条同項)</p> <p>④「通常の管理に関する決定」→裁判官は単独行使を定めることができる(第 337 条の 3)(なお「通常の管理に関する決定」とは、学説では、財産的行為について重要性の少ない日常的行為と解されている)。</p> <p><b>[別居・離婚後の子の扶養]</b></p> <p>(1) 扶養の概念の変更</p> <p>「共同分担監護」の導入により、扶養の概念も「間接扶養」から「直接扶養」に改められた。イタリア法においては、「間接扶養」は、母が子を監護し父は養育料の支払いという経済的負担のみを担う扶養を意味する。これに対して、直接扶養は、父母ともに自己の時間を費やして、子の養育に直接参加するというものである。「共同分担監護」の導入により、子への扶養の概念が「間接扶養」から「直接扶養」に改められた(第 337 条の 3 第 4 項)。</p> <p>そして、この「直接扶養」の理念の下に、第 337 条の 3 第 4 項は、扶養について具体的な基準を規定している。</p> <p>(2) 子に対する扶養の基準</p> <p>1) 子の現実の必要</p> <p>2) 父母双方との同居時に子が享受した生活程度</p>	<p>める。</p> <p>1) 子の現実の必要</p> <p>2) 父母双方との同居時に子が享受した生活の程度</p> <p>3) それぞれの父母の下で滞在する期間</p> <p>4) 父母双方の経済的資力</p> <p>5) 父母それぞれにより行われる監護および家事の経済的評価</p> <p>給付は、両当事者または裁判官により示された他の基準がない場合には、ISTAT(中央統計局)の指標が自動的に適用される。</p> <p>父母により供される経済的情報が十分に証明されない場合には、たとえ名義が異なっても、裁判官は、異議の対象となる財産や所得に関して税務警察の調査を命じる。</p> <p><b>Art. 337 ter. (Provvedimenti riguardo ai figli)</b></p> <p>Il figlio minore ha il diritto di mantenere un rapporto equilibrato e continuativo con ciascuno dei genitori, di ricevere cura, educazione, istruzione e assistenza morale da entrambi e di conservare rapporti significativi con gli ascendenti e con i parenti di ciascun ramo genitoriale.</p> <p>Per realizzare la finalità indicata dal primo comma, nei procedimenti di cui all'articolo 337 bis, il giudice adotta i provvedimenti relativi alla prole con esclusivo riferimento all'interesse morale e materiale di essa. Valuta prioritariamente la possibilità che i figli minori restino affidati a entrambi i genitori oppure stabilisce a quale di essi i figli sono affidati, determina i tempi e le modalità della loro presenza presso ciascun genitore, fissando altresì la misura e il modo con cui ciascuno di essi deve contribuire al mantenimento, alla cura, all'istruzione e all'educazione dei figli.</p>
--	---

<p>3) それぞれの父母の下で滞在する期間</p> <p>4) 父母双方の経済的資力</p> <p>5) 父母それぞれにより行われる監護および家事の経済的評価</p> <p>なお、4)の基準の「父母双方の経済的資力」を判断するうえで重要な点は、第 6 項に、各父母の財産や所得について裁判官の調査権限が規定されたことである。すなわち、名義が異なっても、各父母の財産や所得について、裁判官は税務警察の調査を命じることができ、相手の財産の隠匿を阻止している。</p> <p>(3) 扶養の履行確保</p> <p>現実に扶養義務の不履行が生じた場合には、民事訴訟法上の一般的な差押の制度だけでなく、扶養義務の履行のための命令 (L'ordine di distrazione)の制度がもうけられている(第 156 条 6 項)。これは直接支払命令の制度として意味を持ち、裁判官は、親の雇用主などの第三者に、親が支払うべき金額を、子などの扶養権利者に直接に支払うことを命じることができる。</p> <p>(第 156 条 6 項)</p> <p>不履行の場合には、権利を有する者の請求に基づき、裁判官は、義務を負う配偶者の財産の一部への差押を措置し、かつ定期的にも義務的に一定の金銭を支払う責に任ずる第三者に対しては、その金銭の一部が、権利を有する者に直接に支払われることを命じることができる。</p> <p>L'ordine di distrazione は、その他、以下の場合に認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の暴力に対する保護命令が発令される場合の扶養手当の支払い命令(第 342 条の 3 第 2 項)</li> <li>・家族の住居からの退去命令が発令される場合の扶養手当の支払い命令(刑訴法第 282 条の 2 第 3 項)</li> </ul>	<p>Prende atto, se non contrari all'interesse dei figli, degli accordi intervenuti tra i genitori. Adotta ogni altro provvedimento relativo alla prole, ivi compreso, in caso di temporanea impossibilità di affidare il minore ad uno dei genitori, l'affidamento familiare. All'attuazione dei provvedimenti relativi all'affidamento della prole provvede il giudice del merito e, nel caso di affidamento familiare, anche d'ufficio. A tale fine copia del provvedimento di affidamento è tramessa, a cura del pubblico ministero, al giudice tutelare.</p> <p>La responsabilità genitoriale e' esercitata da entrambi i genitori. Le decisioni di maggiore interesse per i figli relative all'istruzione, all'educazione, alla salute e alla scelta della residenza abituale del minore sono assunte di comune accordo tenendo conto delle capacità, dell'inclinazione naturale e delle aspirazioni dei figli. In caso di disaccordo la decisione è rimessa al giudice. Limitatamente alle decisioni su questioni di ordinaria amministrazione, il giudice può stabilire che i genitori esercitino la responsabilità genitoriale separatamente. Qualora il genitore non si attenga alle condizioni dettate, il giudice valuterà detto comportamento anche al fine della modifica della modalità di affidamento.</p> <p>Salvo accordi diversi liberamente sottoscritti dalle parti, ciascuno dei genitori provvede al mantenimento dei figli in misura proporzionale al proprio reddito; il giudice stabilisce, ove necessario, la corresponsione di un assegno periodico al fine di realizzare il principio di proporzionalità, da determinare considerando:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) le attuali esigenze del figlio.</li> <li>2) il tenore di vita goduto dal figlio in costanza di convivenza con entrambi i genitori.</li> </ol>
---	--

<p>[共同監護への異議→単独監護の申立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独監護の申立ての要件</li> </ul> <p>「他方の親に子の監護を託することが、子の利益に反する場合」(第 337 条の 4 第 1 項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子を監護しない父母は訓育および教育について監守権利義務を有する。</li> </ul>	<p>3) i tempi di permanenza presso ciascuno genitore.</p> <p>4) le risorse economiche di entrambi i genitori.</p> <p>5) la valenza economica dei compiti domestici e di cura assunti da ciascun genitore.</p> <p>L'assegno è automaticamente adeguato agli indici ISTAT in difetto di altro parametro indicato dalle parti o dal giudice.</p> <p>Ove le informazioni di carattere economico fornite dai genitori non risultino sufficientemente documentate, il giudice dispone un accertamento della polizia tributaria sui redditi e sui beni oggetto della contestazione, anche se intestati a soggetti diversi.</p> <p><b>第 337 条の 4 (単独監護と共同分担監護への異議)</b></p> <p>裁判官は、理由を記した措置により、他方の親に子の監護を託することが子の利益に反すると解される場合には、子の監護を父母の一方に定めることができる。</p> <p>各父母は、第 1 項に示す状況が存在する場合には、いつでも、単独監護を求めることができる。</p> <p>裁判官は、申立てを認める場合には、可能な限り、337 条の 3 第 1 項により定められた子の権利を確保し、申し立てた親に、子の単独監護を命じる。</p> <p>申立てに明らかに根拠がないときには、裁判官は、民事訴訟法 96 条(加重責任)を適用し、子の利益のために措置を決定する目的で、申し立てた父母の行為を判断することができる。</p> <p>単独で子を監護する各父母は、裁判官による異なる措置がある場合を除いて、子に対する親責任を単独で行使する。その者は、裁判官により決定された条件に従わなければならない。異なる定めがある場合を除いて、子のためのより重要な利益の決定は、父母双方により行われる。子を監護しない父母は訓育および教育について監守権利義務を有し、そして父母の利益に損害を生じる決定が</p>
--	--



なされたと判断される場合には、裁判官に訴えることができる。

**Art. 337-quater. (Affidamento a un solo genitore e opposizione all'affidamento condiviso)**

Il giudice può disporre l'affidamento dei figli ad uno solo dei genitori qualora ritenga con provvenimento motivato che l'affidamento all'altro sia contrario all'interesse del minore.

Ciascuno dei genitori può, in qualsiasi momento, chiedere l'affidamento esclusivo quando sussistono le condizioni indicate al primo comma. Il giudice, se accoglie la domanda, dispone l'affidamento esclusivo al genitore istante, facendo salvi, per quanto possibile, i diritti del minore previsti dal primo comma dell'articolo 337 *ter*. Se la domanda risulta manifestamente infondata, il giudice può considerare il comportamento del genitore istante ai fini della determinazione dei provvedimenti da adottare nell'interesse dei figli, rimanend ferma l'applicazione dell'articolo 96 del codice di procedura civile.

Il genitore cui sono affidati i figli in via esclusiva, salva diversa disposizione del giudice, ha esercizio esclusivo della responsabilità genitoriale su di essi; egli deve attenersi alle condizioni determinate dal giudice. Salvo che non sia diversamente stabilito, le decisioni di maggiore interesse per i figli sono adottate da entrambi i genitori. Il genitore cui i figli non sono affidati ha il diritto ed il dovere di vigilare sulla loro istruzione ed educazione e può ricorrere al giudice quando ritenga che siano state assunte decisioni pregiudizievoli al loro interesse.

<p><b>【別居・離婚における家族の住居の分与】</b></p> <p>①家族の住居の分与→子の利益を優先して決定(第337条の6)</p> <p>②住居の利用権の消滅</p> <p>1) 子とともに暮らす父母の一方が、住居に居住していない場合</p> <p>2) 定住するのを止めた場合</p> <p>3) 同棲している場合</p> <p>4) 再婚した場合</p>	<p><b>第 337 条の 5 (子の監護に関する措置の再審理)</b></p> <p>父母はいつでも子の監護、子についての親責任行使についての付与、分担の範囲と態様に関するその他の措置に関する定めを再審理を求めることができる。</p> <p><b>Art.337-quinquies. (Revisione delle disposizioni concernenti l'affidamento dei figli)</b></p> <p>I genitori hanno diritto di chiedere in ogni tempo la revisione delle disposizioni concernenti l'affidamento dei figli, l'attribuzione dell'esercizio della responsabilità genitoriale su di essi e delle eventuali disposizioni relative alla misura e alla modalità del contributo.</p> <p><b>第 337 条の 6 (家族の住居の分与と住居に関する権利の消滅)</b></p> <p>家族の住居の利用は、子の利益を優先して定められる。分与については、裁判官は、所有の権限その他を考慮して、夫婦の経済的関係の調整に配慮する。家族の住居の利用の権利は、家族の住居に居住していない場合、若しくは家族の住居に定住するのを止めた場合、または同棲している場合、若しくは再婚した場合には、効力を失う。</p> <p>分与の措置およびその取消の措置は、2643条により登記することができ、第三者に対抗できる。</p> <p>未成年の子がいる場合には、父母それぞれは、他方に対して、住居または住所の変更を30日の上訴権消滅期間内に、通知することが義務づけられる。通知の欠缺によって、その者の発見が困難となり、夫婦または子に対して損害が生じる場合には、その損害の賠償を義務づける。</p> <p><b>Art. 337-sexies. (Assegnazione della casa familiare e prescrizioni in tema di residenza)</b></p> <p>Il godimento della casa familiare è attribuito tenendo prioritariamente conto dell'interesse dei figli. Dell'assegnazione il giudice tiene conto</p>
---	---

<p><b>[成人の子のための措置]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 扶養の原則→未成年の子</li> <li>・ 例外 1) 成年に達しても、経済的に独立していない場合(第 337 条の 7 第 1 項)</li> <li>・ 例外 2) 成人の子であっても障害を持つ子には、未成年の子の規定がすべて適用(同条第 2 項)</li> </ul>	<p>nella regolazione dei rapporti economici tra i genitori, considerato l'eventuale titolo di proprietà. Il diritto al godimento della casa familiare viene meno nel caso che l'assegnatario non abiti o cessi di abitare stabilmente nella casa familiare o conviva <i>more uxorio</i> o contragga nuovo matrimonio. Il provvedimento di assegnazione e quello di revoca sono trascrivibili e opponibili a terzi ai sensi dell'articolo 2643.</p> <p>In presenza di figli minori, ciascuno dei genitori è obbligato a comunicare all'altro, entro il termine perentorio di trenta giorni, l'avvenuto cambiamento di residenza o di domicilio. La mancata comunicazione obbliga al risarcimento del danno eventualmente verificatosi a carico del coniuge o dei figli per la difficoltà di reperire il soggetto.</p> <p><b>第 337 条の 7 (成人の子のための措置)</b></p> <p>裁判官は、状況を判断して、経済的に独立していない成人の子の利益のために、定期的扶養の支払を命じることができる。かかる手当は、裁判官の異なる決定を除いて、権利の所有者に直接に支払われる。</p> <p>障害を持つ成人の子には、未成年の子のために規定された措置が全面的に適用される。</p> <p><b>Art.337-septies ( Disposizioni in favore dei figli maggiorenni)</b></p> <p>Il giudice, valutate le circostanze, può disporre in favore dei figli maggiorenni non indipendenti economicamente il pagamento di un assegno periodico. Tale assegno, salvo diversa determinazione del giudice, è versato direttamente all'avente diritto.</p> <p>Ai figli maggiorenni portatori di handicap grave si applicano integralmente le disposizioni previste in favore dei figli minori.</p>
--	---

**[子の聴聞権]**

- ・ 12 歳以上→ 聴聞権(第 337 条の 8)
- ・ 12 歳以下であっても判断能力あり  
→ 聴聞できる

(

**第 337 条の 8 (裁判官の権限と聴取を受ける子の権利)**

暫定的であっても、337 条の 3 の措置を発する前に、裁判官は、当事者の申立て若しくは職権で、証拠を調べる。裁判官は、さらに 12 歳以上、および判断能力のある場合には、それ以下の年齢の子でも、子の聴取を行う。子の監護の条件について、父母の合意が認定され、または公的に記録された手続において、子の利益に反する場合または明らかに不要な場合には、裁判官は、子への意見の聴取を行わない。

子の精神的物質的利益の保護のための特別な配慮を行った上で、夫婦が、合意に達するために、専門家を利用して調停を行うことに同意するために、裁判官は、当事者を聴聞し、かつ親の同意を得て、337 条の 3 条の措置の採用を延期することができる。

**Art.337 octies (Poteri del giudice e ascolto del minore)**

Prima dell'emanazione, anche in via provvisoria, dei provvedimenti di cui all'articolo 337 *ter*, il giudice può assumere, ad istanza di parte o d'ufficio, mezzi di prova. Il giudice dispone, inoltre, l'ascolto del figlio minore che abbia compiuto gli anni dodici e anche di età inferiore ove capace di discernimento. Nei procedimenti in cui si omologa o si prende atto di un accordo dei genitori, relativo alle condizioni di affidamento dei figli, il giudice non procede all'ascolto se in contrasto con l'interesse del minore o manifestamente superfluo.

Qualora ne ravvisi l'opportunità, il giudice, sentite le parti e ottenuto il loro consenso, può rinviare l'adozione dei provvedimenti di cui all'articolo 337 *ter* per consentire che i coniugi, avvalendosi di esperti, tentino una mediazione per raggiungere un accordo, con particolare

<p><b>【家族の暴力に対する保護命令】</b></p> <p>2001年の「家族関係における暴力防止措置法」(2001年4月5日法律第154号)により、民法の親権法の部分に第9の2章として、家族関係における暴力に対する保護命令の規定が置かれた。</p> <p><b>(1) 保護命令発令の要件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加害行為の主体(342条の2) <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 配偶者または同居者</li> </ul> </li> <li>・加害行為 → 配偶者または同居者の自由または身体もしくは精神に重大な危害をたらす場合</li> </ul> <p><b>(2) 保護命令の内容(342条の3)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場・家族や近親者の住居、子の教育施設への1年の接近禁止命令</li> <li>・1年の退去命令</li> </ul>	<p>riferimento alla tutela dell'interesse morale e materiale dei figli.</p> <p><b>民法 第9章の2 家族の暴力に対する保護命令</b>  <b>Titolo IX bis Ordini di protezione contro gli abusi familiari</b></p> <p><b>第342条の2 家族の暴力に対する保護命令</b></p> <p>配偶者または一方の同居者の行為が他方の配偶者または同居者の自由または身体もしくは精神に重大な危害をもたらす場合には(その行為が職権で訴追できる犯罪を成立させない場合には)、当事者の申立てにもとづき、命令により第342条の3の一つまたは複数の措置を行うことができる。</p> <p><b>342 bis. (Ordine di protezione contro gli abusi familiari.)</b></p> <p>Quando la condotta del coniuge o di altro convivente è causa di grave pregiudizio all'integrità fisica o morale ovvero alla libertà dell'altro coniuge o convivente, il giudice, [qualora il fatto non costituisca reato perseguibile d' ufficio, ]su istanza di parte, può adottare con decreto uno o più dei provvedimenti di cui all'articolo 342-ter.</p> <p><b>第342条の3 保護命令の内容</b></p> <p>342条の2の命令により、裁判官は、危害を与える行為を行った配偶者または同居者にその行為を止めることを命じ、危害を与える行為を行った配偶者または同居者の家族の家からの退去を命じ、さらに必要な場合には、申立人が通常出入りする場所、とくに申立人の職場、実家や近親者またはその他の者の住居および双方の子の教育施設近辺に接近することを禁じる措置を行う。ただし職業上の必要により出入りしなければならない場合はこの限りではない。</p> <p>裁判官は、さらに必要な場合には、以下のことを命じることができる。地域の社会サービスまた</p>
---	--

は家族の仲裁機関および女性や子や暴力や虐待の被害者であるその他の者を法的に支援し収容する団体の介入。第 1 項における措置の効果として、相応な資力に欠ける同居者のために、支払の期間および方法を定め、かつ場合によっては義務者の給与から差し引いて、義務者の雇用主から権利者直接に手当の金額を定期支払すること。

同命令により、裁判官は、前項の場合に、同命令の執行開始の日から効力を有する保護命令の継続期間を定める。この期間は 1 年を越えてはならず、重大な理由が生じた場合のみ、当事者の申立てにより必要な期間を延長しうる。

同命令により裁判官は、実行の方法を決定する。実行に困難または異議が生じた場合には、裁判官は、警察および公的保健機関の援助を含む、より適切な措置を行う命令を発する。

**Art. 342 ter. (Contenuto degli ordini di protezione)**

Con il decreto di cui all'articolo 342 bis il giudice ordina al coniuge o convivente, che ha tenuto la condotta pregiudizievole, la cessazione della stessa condotta e dispone l'allontanamento dalla casa familiare del coniuge o del convivente che ha tenuto la condotta pregiudizievole prescrivendogli altresì, ove occorra, di non avvicinarsi ai luoghi abitualmente frequentati dall'istante, ed in particolare al luogo di lavoro, al domicilio della famiglia d'origine, ovvero al domicilio di altri prossimi congiunti o di altre persone ed in prossimità dei luoghi di istruzione dei figli della coppia, salvo che questi non debba frequentare i medesimi luoghi per esigenze di lavoro.

Il giudice può disporre, altresì, ove occorra l'intervento dei servizi sociali del territorio o di un centro di mediazione familiare, nonché delle associazioni che abbiano come fine statutario il

<p>[父母間の紛争解決および不履行への制裁処分]</p> <p>民事訴訟法 709 条の 3 は、不履行または違反についての制裁措置を規定する。この規定は、父母がお互いの合意や裁判官の措置に従わない場合の解決手段を規定したものである。この制度の目的</p>	<p>sostegno e l'accoglienza di donne e minori o di altri soggetti vittime di abusi e maltrattati; il pagamento periodico di un assegno a favore delle persone conviventi che, per effetto dei provvedimenti di cui al primo comma, rimangono prive di mezzi adeguati, fissando modalità e termini di versamento e prescrivendo, se del caso, che la somma sia versata direttamente all'avente diritto dal datore di lavoro dell'obbligato, detraendola dalla retribuzione allo stesso spettante.</p> <p>Con il medesimo decreto il giudice, nei casi di cui ai precedenti commi, stabilisce la durata dell'ordine di protezione, che decorre dal giorno dell'avvenuta esecuzione dello stesso. Questa non può essere superiore a un anno e può essere prorogata, su istanza di parte, soltanto se ricorrano gravi motivi per il tempo strettamente necessario.</p> <p>Con il medesimo decreto il giudice determina le modalità di attuazione. Ove sorgano difficoltà o contestazioni in ordine all'esecuzione, lo stesso giudice provvede con decreto ad emanare i provvedimenti più opportuni per l'attuazione, ivi compreso l'ausilio della forza pubblica e dell'ufficiale sanitario.</p> <p>[民事訴訟法] 民事訴訟法 第 709 条の 3 (紛争の解決および不履行または違反の措置)</p> <p>親責任または監護の態様について父母間で生じた紛争の解決は、係属している措置の裁判官が管轄権を有する。第 710 条所定の措置は、子の住所地の裁判所が管轄権を有する。</p> <p>申立に続き、裁判官は、両当事者を呼出し、適切な措置を行う。重大な義務の不履行もしくは子に害をもたらし、または監護の正しい遂行を阻害する行為がある場合には、現行の措置を修正し、</p>
---	---

<p>は、ひとつには父母間に生じた対立を適切な解決するためであり、もうひとつは不適切な父母の行為を是正し、合意や裁判官の措置を守らせるためである。</p> <p>①両親間の紛争の解決手段 →裁判官による適切な措置</p> <p>②制裁の対象となる行為</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 父母による重大な義務の不履行</li> <li>2) 子の損害を増加させる行為</li> <li>3) 監護の正しい遂行を阻害する行為</li> </ol> <p>③ 制裁措置の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現行の措置の修正</li> <li>2) 義務を履行しない親への警告</li> <li>3) 損害賠償の命令</li> <li>4) 罰金の支払い(行政罰: 最低 75 ユーロから最高 5000 ユーロまで)</li> </ol>	<p>同時に以下の行為を行うことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 義務を履行しない父母に警告する。</li> <li>2) 父母の一方に対して、子についての損害賠償を命じる。</li> <li>3) 父母の一方に対して、他方についての損害賠償を命じる。</li> <li>4) 義務不履行の親に、罰金金庫へ最低 75 ユーロから最高 5000 ユーロまでの行政罰の支払いを科する。</li> </ol> <p><b>[Codice di procedura civile]</b></p> <p><b>Art.709 ter. (Soluzione delle controversie e provvedimenti in caso di inadempienze o violazioni)</b></p> <p>Per la soluzione delle controversie insorte tra i genitori in ordine all'esercizio della responsabilità genitoriale o delle modalità dell'affidamento è competente il giudice del procedimento in corso. Per i procedimenti di cui all'articolo 710 è competente il tribunale del luogo di residenza del minore.</p> <p>A seguito del ricorso, il giudice convoca le parti e adotta i provvedimenti opportuni. In caso di gravi inadempienze o di atti che comunque arrechino pregiudizio al minore od ostacolino il corretto svolgimento delle modalità dell'affidamento, può modificare i provvedimenti in vigore e può, anche congiuntamente:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ammonire il genitore inadempiente;</li> <li>2) disporre il risarcimento dei danni, a carico di uno dei genitori, nei confronti del minore;</li> <li>3) disporre il risarcimento dei danni, a carico di uno dei genitori, nei confronti dell'altro;</li> <li>4) condannare il genitore inadempiente al pagamento di una sanzione amministrativa pecuniaria, da un minimo di 75 euro a un massimo di 5,000 euro a favore della Cassa delle ammende.</li> </ol>
---	---



<p><b>[刑事手続の保全処分としての接近禁止命令および退去命令]</b></p> <p>刑事事件として、刑事訴訟法の保全処分を規定する 282 条の 2 にも、民事事件の保護命令とほぼ同様の退去命令および接近禁止命令が規定された。</p>	<p>I provvedimenti assunti dal giudice del procedimento sono impugnabili nei modi ordinari.</p> <p><b>[イタリア刑事訴訟法典]</b> <b>[Codice di Procedura Penale]</b></p> <p><b>第 2 節 強制処分</b> <b>Capo II Misure Coercitive</b></p> <p><b>第 282 条の 2 (家族の家からの退去)</b></p> <p>1. 退去を命じる措置により、裁判官は被告人に家族の家からの即刻の退去および再び立ち入らないこと、および担当の裁判官の許可なく接近することを被告人に禁じる。接近に必要な許可は、訪問の態様を命じることができる。</p> <p>2. 裁判官は、被害者または近親者の安全の確保が必要な場合には、出入りすること職業上の理由のために必要な場合を除いて、さらに被害者が通常出入りする場所とくに職場、実家の家族または近親者の住居への接近禁止を被告人に命じることができる。</p> <p>3. 裁判官は、検察官の請求により、保全処分の効果として、相応な資力のない同居者のために、さらに扶養手当の定期支払を命じることができる。裁判官は、義務者の状況や収入を考慮して扶養手当の処分を決定し、支払の期間や方法を定める。必要な場合には、手当は義務者の給与より差し引いて、義務者の雇用主より受益者に直接支払いことを命じることができる。支払命令は、執行名義の効力を有する。</p> <p>4. 2 項 3 項における措置は、保全処分が取り消されないかまたは効力を失わない場合は、1 項の措置の後であってもいつでも行うことができる。1 項の措置が効力を失うか取消される場合には、たとえば 2 項 3 項の措置がその後に行われても、効力を失う。さらに民事訴訟法典第 708 条に規定された</p>
---	---

命令または他の配偶者間の経済的財産的關係または子の扶養に関して民事裁判官の他の措置が新たに行われる場合には、3項の措置は、配偶者や子の利益になる場合は効力を失う。

5. 義務者や受益者の状況が変化した場合には、3項の措置は修正され、共同生活が回復した場合には取り消される。

6. 近親者または同居者が被害者として、刑法典第570条、第571条、第600条の2、第600条の3、第600条の4、第609条の2、第609条の3、第609条の4、第609条の5、第609条の8、612条に規定された犯罪の一つについて裁判手続が行われる場合には、第280条に規定された刑の制限から外れる場合であっても、その処分を命じることができる。275条の2に規定された監督の態様についても同様である。

**Art. 282 bis. (Allontanamento dalla casa familiare).**

1. Con il provvedimento che dispone l'allontanamento il giudice prescrive all'imputato di lasciare immediatamente la casa familiare, ovvero di non farvi rientro, e di non accedervi senza l'autorizzazione del giudice che procede. L'eventuale autorizzazione può prescrivere determinate modalità di visita.

2. Il giudice, qualora sussistano esigenze di tutela dell'incolumità della persona offesa o dei suoi prossimi congiunti, può inoltre prescrivere all'imputato di non avvicinarsi a luoghi determinati abitualmente frequentati dalla persona offesa, in particolare il luogo di lavoro, il domicilio della famiglia di origine o dei prossimi congiunti, salvo che la frequentazione sia necessaria per motivi di lavoro. In tale ultimo caso il giudice prescrive le relative modalità e può imporre limitazioni.

3. Il giudice, su richiesta del pubblico ministero, può altresì ingiungere il pagamento periodico di un assegno a favore delle persone conviventi che,

per effetto della misura cautelare disposta, rimangano prive di mezzi adeguati. Il giudice determina la misura dell'assegno tenendo conto delle circostanze e dei redditi dell'obbligato e stabilisce le modalita' ed i termini del versamento. Può ordinare, se necessario, che l'assegno sia versato direttamente al beneficiario da parte del datore di lavoro dell'obbligato, detraendolo dalla retribuzione a lui spettante. L'ordine di pagamento ha efficacia di titolo esecutivo.

4. I provvedimenti di cui ai commi 2 e 3 possono essere assunti anche successivamente al provvedimento di cui al comma 1, sempre che questo non sia stato revocato o non abbia comunque perduto efficacia. Essi, anche se assunti successivamente, perdono efficacia se è revocato o perde comunque efficacia il provvedimento di cui al comma 1. Il provvedimento di cui al comma 3, se a favore del coniuge o dei figli, perde efficacia, inoltre, qualora sopravvenga l'ordinanza prevista dall'articolo 708 del codice di procedura civile ovvero altro provvedimento del giudice civile in ordine ai rapporti economico-patrimoniali tra i coniugi ovvero al mantenimento dei figli.

5. Il provvedimento di cui al comma 3 può essere modificato se mutano le condizioni dell'obbligato o del beneficiario, e viene revocato se la convivenza riprende.

6. Qualora si proceda per uno dei delitti previsti dagli articoli 570, 571, 582, 600, 600-bis, 600-ter, 600-quater, 600-septies.1, 600-septies.2, 601, 602, 609-bis, 609-ter, 609-quater, 609-quinquies e 612, secondo comma, del codice penale, commesso in danno dei prossimi congiunti o del convivente, la misura può essere disposta anche al di fuori dei limiti di pena previsti dall'articolo 280 ((, anche con le modalita' di controllo previste all'articolo

275-bis)).

**第 282 条の 3 (被害者の通常出入りする場所への接近禁止)**

1. 接近禁止の措置により、裁判官は被害者が日常出入りする一定の場所に被告人が接近しないように命じ、また被害者または以上の場所から一定の距離を保つことを命じる。

2. さらなる保護の必要が生じた場合には、裁判官は被害者の親族または同居者または情愛により結ばれた者に接近しないように、または一定の距離を維持することを命じる。

3. 裁判官は、さらにいかなる手段によっても、1 項、2 項の趣旨の者との連絡することを被告人に禁じることができる。

4. 1 項、2 項の趣旨の場所への立ち入りが、職業的理由は居住上の理由から必要な場合には、裁判官は相応の態様を定め限定することができる。

**Art. 282 ter. (Divieto di avvicinamento ai luoghi frequentati dalla persona offesa).**

1. Con il provvedimento che dispone il divieto di avvicinamento il giudice prescrive all'imputato di non avvicinarsi a luoghi determinati abitualmente frequentati dalla persona offesa ovvero di mantenere una determinata distanza da tali luoghi o dalla persona offesa.

2. Qualora sussistano ulteriori esigenze di tutela, il giudice può prescrivere all'imputato di non avvicinarsi a luoghi determinati abitualmente frequentati da prossimi congiunti della persona offesa o da persone con questa conviventi o comunque legate da relazione affettiva ovvero di mantenere una determinata distanza da tali luoghi o da tali persone.

3. Il giudice può, inoltre, vietare all'imputato di comunicare, attraverso qualsiasi mezzo, con le persone di cui ai commi 1 e 2.

4. Quando la frequentazione dei luoghi di cui ai

	<p>commi 1 e 2 sia necessaria per motivi di lavoro ovvero per esigenze abitative, il giudice prescrive le relative modalità e può imporre limitazioni.)</p> <p><b>第 282 条の 4 (通報の義務)</b></p> <p>第 282 条の 2 および 282 条の 3 の措置は、武器および弾薬の措置の可能性のために、管轄の警察に伝えられる。さらにそれらの措置は、被害者や社会福祉機関に伝えられる。被告人が地域の社会福祉機関により計画準備された暴力防止の計画に積極的に従う場合には、責任を負う機関は、第 299 条 2 項の趣旨による評価の目的で、その旨を検査官または裁判官に伝える。</p> <p><b>Art. 282 quarter. (Obblighi di comunicazione)</b></p> <p>1.I Provvedimenti di cui agli articoli 282 bis e 282 ter sono comunicati all'autorità di pubblica sicurezza competente, ai fini dell'eventuale adozione dei provvedimenti in materia di armi e munizioni. Essi sono altresì comunicati alla parte offesa e ai servizi socio-assistenziali del territorio. Quando l'imputato si sottopone positivamente ad un programma di prevenzione della violenza organizzato dai servizi socio-assistenziali del territorio, il responsabile del servizio ne dà comunicazione al pubblico ministero e al giudice ai fini della valutazione ai sensi dell'articolo 299, comma 2.</p>
2019年3月10日	翻訳・執筆 拓殖大学教授 椎名規子